

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成28年2月(2016年)No 602

丹波篠山ビデオ全国コン OMCが5年連続グランプリ受賞 今年の高瀬氏が快挙、前田、吉岡氏も受賞

1月31日(日曜日)開催された丹波篠山ビデオ大賞全国コンテストで高瀬さん、前田さん、吉岡さんの3氏が入賞されるというお目出度いことがありました。なかでも高瀬さんの「思い出に生きるケヤキ」はグランプリ受賞で、実にわが大阪ムービーサークル(OMC)の会員として5年連続グランプリという輝かしい実績を残しました。受賞された3名の会員諸氏に、改めて「おめでとうございます。」とお祝いの言葉を差し上げたいと思います。OMCの歴史上記念すべき日となりました。また1クラブから入賞7名のうち3名が占めるというのも新記録ではないでしょうか。

- ・ビデオ大賞(グランプリ) 「思い出に生きるケヤキ」 6分56秒 高瀬辰雄さん
- ・入賞 篠山市長賞 「ある駅長さん」 6分55秒 前田茂夫さん
- ・入賞 サンテレビジョン賞 「巣立つ」 6分52秒 吉岡貞夫さん

課題コン「野」で作品つくって下さい

毎年大阪ビデオクラブで好評だった宮中歌会始めの来年の題を採用して課題コンを実施してきましたので、OMCでもそれを引継いで実施します。

- ・題:「野」 この野が入っている題名ならどんなに解釈しても結構ですので皆さん知恵を絞って作品をつくって下さい。:野菜、野草、原野、野原、野の花、野菊、草野球、高校野球、春日野、野生の〇〇等。
- ・時間10分以内、 ・コンテスト:4月第2例会にて互選による。

2月例会のお知らせ

- 第2例会:今月は第2例会はありません。(原則として奇数月開催)
- 通常例会・2月27日(第4土曜)18時より、難波市民学習センター(OCATビル4F)にて開催。寒さも少し和らいでいる頃です。楽しいひと時をみんなで過ごしましょう。

(注)3月第2例会は野田会員の東大阪の工場で撮影会をやるので学習センターでの例会は4月に行います。

黒田先生が個人映写会

倉田先生はかねてより東大寺お水取りを取材され、膨大な量の記録映像を撮影されてこられました。このほどその集大成とも云える作品をまとめられ、発表会が行われますのでお知らせいたします。

- ・日時:平成28年2月15日(月)18時
- ・場所:やまと郡山城ホール 大ホール
- ・題: 東大寺修二会 お水取りの全貌

ミニ撮影会のお知らせ

3月第3木曜17日、野田邦雄会員が経営されている東大阪の町工場をテーマにしたミニ撮影会を行いますので、参加されたい方は、朝9時40分、JR旧片町線、徳庵(とくあん)駅前(下車して左側へお入り)集合。詳しくは関世話役まで、作品コンテストは5月第2例会日に互選で行います。良い作品は公開映写会で上映します。

■一泊撮影会は5月14日(土)15日(日)

京都府南丹市美山町・かやぶきの里

くわしくは別途案内、担当高瀬世話役。3月例会で受付します。

■平成27年度 年度賞発表

・最優秀賞 紙本 勝

「四天王寺四季曼荼羅」

- ・優秀賞 野田邦雄 「お笑い神事」
- ・秀作賞 森口吉正 「京の川鴨川源流へ」
- ・会長賞 前田茂夫 「余部に生きる」

■名簿の訂正

・河口禮志さん

電話番号 正:0833-91-0383

携帯:090-4870-7923

E-mail: 正 gqx35txd@alto.ocn.ne.jp

1月例会のレポート

1月例会は23日午後1時から第3研修室で開催。司会は合原氏、書記、河合氏、映写、井上、坪井の両氏、録画、江村氏、受付兼照明、華岡、宮崎の両氏、掲示は紙本氏の担当で進行しました。作品上映後に総会を開催し5時で閉会。6時頃より新年会へ席を移しました。

◆出席者:赤澤、有村、井上、稲田、江村、

岡本、河口、紙本、河合、黒田、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、坪井、西村亀、野田、華岡、前田、宮崎、森下、森田、山本、吉岡、(敬称略)の25人と作品本数は14本でした。

◆上映作品 (講評:河合世話役です)

1) 曾根天満宮の秋祭り

河合源七郎 11分0秒

姫路市の南、播磨灘に面する高砂市にある曾根天満宮の秋祭りを取材した拙作。傘下の部落から10台の屋台が繰り出され10月13~14日に亘って行われる。元気な子供や漁師の若者が主役の勇壮な祭だが、部落毎の特色もなく、変化もない祭だった。従って改めて撮影や編集に工夫を凝らさないと作品にならないと反省した次第。

2) ベラートと首都ティラナ

華岡 汪 11分46秒

今回のアルバニアの旅は、隣国マケドニアのオリフドから始まるが、ベラートでは城の高台からの眺めがすばらしい。そして世界遺産「千の窓の町」が登場し、市民の住宅街もそれぞれ美しい。次いで首都ティラナを紹介、更にアルバニア建国の英雄スカンデルベルグゆかりのクルヤ城で旅は終わり。アルバニアが一角を占めるバルカン半島は、様々な民族が多様な言語を持ち、且つ東ローマ帝国、オスマン帝国などの強国に長年支配を受け、19世紀後半にオスマン帝国が衰退すると、今度は勃興したヨーロッパの列強に翻弄されてきた。勿論アルバニアの歴史も埒外ではなく、その歴史をある程度理解しないと、古い町並みや遺跡を楽しむことも容易ではない。ネットに何時間か齧り付いて映像を追っかけていた私の無智さに、今更ながら恥じ入っている。

3) 真田三代記 昌幸編

紙本 勝 14分25秒

紙本さんお得意の歴史物、しかも目下NHK テレビに毎週登場する「真田丸」に呼

応して制作に取り組まれている3部作、「真田3代記」の第2編です。昌幸は、苦難の上「國人領主」(註*1)としての地位を確立した初代幸隆の3男で、人質として出仕していた武田信玄に可愛がられ、名門武藤氏の跡をついで喜兵衛と称し近習として活躍していた。が、信玄の後をついだ勝頼が長篠之合戦で織田・徳川軍に敗れ、兄の昌輝、信綱も戦死したので、旧姓に復し昌幸と称して真田家2代目となり、ここから「国人真田昌幸」の活躍がはじまります。戦国時代末期、武田信玄、上杉謙信が亡くなり、北条、上杉家も絡みながら、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康による全国平定への戦いの戦が続くなか、真田昌幸は国人として自らのアイデンティティを主張し、僅かの軍勢で居城上田城に膨大な徳川勢を引き寄せ、権謀術策を巡らして2度に亘って撃破、徳川家康・秀忠親子を切齒扼腕させています。私は真田昌幸こそ戦国末期最強の武将だと評価していますが、作者はこの昌幸をこの映像で追っかけられています。とは言っても当時の映像はありませんから、総て現在の遺跡、遺構を撮影して昌幸一代記を語られます。どれだけの手数をかけて遺跡を回られたか、撮影されたカットは計り知れない量になっている筈ですが、どうして整理され保存されてきたのか、「感嘆！」の一語に尽きます。

(註*1): ここでいう「国人」、「國人領主」とは、中世、鎌倉幕府や公家の権威によって「地域を支配するのではなく、自力で支配した土着の武士達のことをいっている。

4. もしも淀川が決壊したら枚方は…

前田茂夫

10分52分

昨年9月10日発生した鬼怒川の堤防が決壊し、大きな被害を起こしたことは記憶に新しいところですが、作者は「もしも身近な淀川が決壊したら」に思いをいたし、「淀川資料館」(註*2)を訪れ、「淀川の洪水」に関し勉強をされた内容を纏められ、われわれに様々な問題点を投げかけられます。

淀川の歴史はまた治水との歴史だといわれて来ました。「新淀川の開削で大阪は救われた」と教えられ、安心していましたが、最後は矢張り自分で考え、自衛することが大事だと痛感した次第でした。

(註*2) 淀川資料館での展示は終わっているが、門真歴史資料館では2月28日まで展示されている模様です。興味のある方は今からでも門真に行けば間に合う！)

5. シベリア鉄道の旅

山本正夢

16分20秒

有名な「ロシア号(多分?)」がウラジオストク中央駅に現れ、9288km6泊7日の旅が始まります。車内の様子や窓外の景色が次々と展開し、食事は基本的に持ち込み、客室には電源がないので廊下から引き込むがこれでコンピューターもネットもOKらしい。「車内は全面禁煙」。途中の停車時間が唯一の喫煙時間とか。外はもう全面雪景色。しかし私が思っていたほど雪は深くない。画面は雪に覆われた原野が続く。「乗客はこの壮大な大陸風景を毎日見続けて、その間何を考えて過ごしているのだろうか」とつい考えてしまう。イルクーツク駅では多くの乗客仲間と別れて、列車はバイカル湖畔を走る。透明度世界一を誇る世界遺産だ。しかしその後はまたまた壮大な雪の原野が続く。朝日に映える樹氷が美しい。ナレーションがなく、テロップも多くないので、作者の思いは窺い知る由もないが、45年前にパリに留学した義弟から聞いた、シベリヤ旅日記に思いを馳せながら、楽しく拝見しました。

6. 家山秋の祭典

江村一郎

8分45秒

嘗てのOMCの撮影会に参加された会員なら、大井川鉄道の家山駅を覚えておられるでしょう。その家山駅の近くに「家山八幡神社」があって、その秋のお祭りが10月10~11日に行われました。この日駅前

お祭り広場になって、曳き山が引き回され、演芸の舞台も出来て賑やかとなり、から練り人形も活躍します。子供から大人まで、演技をする人になったり見物する人になって、村人たちは祭を盛り上げています。過疎の町から脱却しようという人々の意気込みが感じられ、深い感銘を受けました。静岡名物の手筒花火でENDです。

7. 秋の奈良公園

有村 博

7分36分

転害門と奈良公園片隅の老いた鹿の大写しからこの作品は始まります。続いて大仏池、東大寺講堂跡、大仏殿の裏を通過、鏡池から大仏殿正面に至る道取りは観光客もまばらで、奈良の秋を楽しむ作者には、とっておきの秘密の道なのでしょう。正倉院、戒壇院を外してあるのも、心憎い選択だと思いました。更に足取りは二月堂から若草山の裾道を経て春日神社へ。鷺池と浮見堂、荒池と観光客を避けて奈良公園周辺を一周、作者の秋の奈良の旅は終わります。素晴らしいコースの選択に、奈良の秋を心ゆくばかり堪能しました。(余談ですが、和歌2首は秋の奈良に関係がないと思われまます。削除されては如何でしょうか。愚見まで)

8. 岩田山のおサルさん

高瀬辰雄

12分25分

猿のサンクチュアリが嵐山にあるとは知りませんでした。ここでは野生のニホンザルが見られるとあって人気だそうです。(北米や欧州には野生のサルはいない?) 先ずは餌場で観光客に餌をねだるサルたち。カメラはおサルの立場で餌をやる観光客に焦点を当てています。それもそのはず、観光客はここでしか餌をやる事が出来ないので。そう言えば、このサルは、餌を施設と客から与えられ、外敵からも保護されていて、野生の厳しさを知らないで、全員肥満体です。傑作は彼らの交尾風景です。きわめておおらかな姿をカメラは捉えていて微笑ましい風景を映し出しています。

しかし、突如雪が降りだしますと、サルたちは身を隠す場所がなさそうです。サル同士庇い合って難を避けています。この公園を作るとき、身を隠す自然を残せなかったのでしょうか。外敵を自ら防ぐための自然を残し、代わりに餌も自分達で探し求めるサンクチュアリを実現して欲しかったと思いました。なお、司会者からは「もう少し短くすれば、締まった作品になるのでは」との助言がありました。

9. ニホン祭礼 響

河口禮志

12分26分

一年に一度登場頂ける河口さんのアーカイブス作品。永年撮りためた祭の8ミリ映像を、カットして繋ぎ、音楽に乗せた「心象映像」とのこと。最初16分であったものが、テレビネの間に15分になり、今日持ってきたのは12分になったとのことでした。映像は短いカットが次々と現れ、変化する。原8ミリフィルムにすれば、どれだけの撮影量になるのだろう。ここ15年ばかり、全国に祭を追っかけている私であるが、知らない祭が多く、いや殆ど知らないと言った方が良いかも知れない。職業柄 各地の祭に出会われる機会が多かったかも知れないが、それにしも膨大な祭礼映像を駆使されているのは驚嘆に値します。ただBGMの選曲が変化に乏しく、作者の心象の展開が単純になってしまったのではないかと惜しまれます。

10. 梅一輪 一輪ほどの

柴辻英一

7分

堺市泉北ニュータウン宮山台の多治速比売神社に隣接して、荒山(こうぜん)公園という梅の名所を追っかけられました。満開の梅を訪ねて歩く人達の姿は、まさに「春麗ら!」です。そして白梅、紅梅、大輪、小輪と次々に展開して行きます。それにしても、題名の最後のところ「暖かさ」を、わざわざ空白にして余韻を残されているのには、流石にベテランと感心しました。多分作者が主張したかった「暖かさ」が、この空白で

一層強調されたのではないのでしょうか。

11. お水取りの全貌

黒田敏彦

12分

小児科医黒田敏彦さんが、開業医としての診療を終えてから東大寺に駆けつけ、10年間に撮りためた二百数十時間に及ぶ映像素材を1年かけて編集、公開の運びになりました。お水取りは単なる観光行事ではない、法要という厳粛な宗教行事なのだという黒田さんは、一度訪れると毎年通わずにはおれない不思議な魅力に溢れていると言う。その全貌をダイジェスト版として紹介された。上映会は来る2月15日やまと郡山城ホールで午後5時半開場、上映される。会場は小ホールから大ホールに変更されて余裕含みの由。是非ともお友達を多数お誘い合わせの上鑑賞されんことを。

12. 新春直前の河内音頭

森田光春

8分

大晦日近鉄八尾駅前で開催された「カウントダウン・イヴ」と銘打たれた「河内音頭大会」。参加者は浴衣姿ならぬ冬装備、和服姿の正装も混じっている。それでも違和感を覚えないのは本場河内の催しだからであろうか。映像、音声とも早送りの部分が多く現れる。多分作者の意図だろうが、作者の明確な意図のもとに構成された作品であれば、それなりの意義はあるだろう。折角の意図であれば、時間の変化に多様さがあればと残念に思った。

13. 猿丸さん

進藤信男

9分50秒

禅定寺と紫香楽宮跡には2度ばかり訪れています。猿丸太夫がここに祀られているとは知りませんでした。アクセスの不自由な所なのに、多くの信者が参詣に来ておられます。吃驚しました。申歳だからといった観光気分はなく、真摯な信者の姿が細かに描かれています。何故猿丸太夫が此処に祀られているのかは不明のようですが、近世に入って「でき物や癌に靈験」のある

「瘤とりの神」として信仰を集めるようになったとか。一度はお参りしてみたい神社です。

14. 黄金の千本銀杏と桜島と鹿屋

赤澤與三郎

3分43秒

鹿児島を旅されたときの記録映像。鹿児島県垂水市(桜島の南)にある「千本イチョウ園」から作品は始まり、有村溶岩展望所は桜島にあって行かれた方も多と思います。さらに旅は南の鹿屋航空基地へ。先ず第1にタイトル、テロップのフォントが読みにくい。これは早急に改められないと観客はついて行けません。また、今まで拝見した映像より、総じてピントが甘いようです。カメラが従来と同じであれば、一度設定をチェックされて見ては。

第2例会レポート

1月21日13時より第4研修室で開催。今月の前半は坪井世話役によるビデオカメラ関連機器及びPC関連機器技術の解説をされた。普段知っているようでよく知らない点を詳細に理解できた。その後会員作品上映と参考作品を鑑賞した。司会、合原氏、書記、紙本氏、映写係、河合、江村の両氏、受付、森下、宮崎の両氏、掲示、紙本氏の担当で進行しました。

◆出席者：有村、稲田、植村、江村、河合、蟹江、紙本、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、坪井、野田、鉄具、華岡、前田、宮崎、森田、森下、山本の21氏。

◆上映作品（講評：紙本世話役です）

1. えじゃないか祭り

江村一郎

8分00秒

泉州のりんくうたうんでの祭りは、江村さんお得意のよさこい踊りで、競演だったにののでしょうか。凡そ17チームが出演、現場のカットを挟んで次々とそれぞれの振り付けで、激しく若さが躍動です。本場高知とは場所の違いで、雰囲気は少々異なりますが、場所がどこであろうと撮影は手慣れたもので、人を引きつける作品の魅力は、踊り子と一体の気持ちで撮られるのだらうと思います

が、楽しく見せて頂きました。

2, 2015 OSAKA 光の競演

蟹江利一 14分00秒

12月は大阪市内が光り輝く季節、アクアライナーに乗船しての撮影、続いて公会堂の光のアート、御堂筋を車で走りなんばパークス、更に海遊館の大海原を表現したイルミネーションいずれも人気の光の広場で、タイトル通りの競演の様で、それをより美しく撮っておられます。ただ、欲を言えば、アクアライナーの乗船から下船までの間で凡そ3分・御堂筋で1分をカットすればより盛り上がったのではと思いました。

3, 真田三代記昌幸編

紙本勝 12分20秒

今年のNHKの大河ドラマは「真田丸」で武将の中では日本一の兵と言われ女性にも人気者の真田信繁(幸村)の演出はどんなものか楽しみでもあります。私は、幸隆・昌幸・信幸・幸村の三代にゆかりのある城跡やイベントを、5、6年掛けて撮ったものをこの機会に纏めてみたものです。

4, 彩り

有村 博 3分22秒

先月見せて頂いた作品と似て、綺麗な枠の中に御堂筋で取材された美しい秋の風景を見せる紅葉のいちょうや花、それに彫刻など黄色に赤にと、本来の彩りに加えて彩色の枠で、さらに目を引く作品にされています。短編ですが、工夫次第で眠っている素材を生かして楽しい作品が生まれると言う事を教えて頂いた様です。

5, イビザ島の孫達

山本征夢 9分30秒

スペイン人が大好きという地中海の楽園イビザ島、世界遺産の白い街にお住まいの息子さん一家をシベリア鉄道を使って訪れての、山本さんでは珍しいホームムービーです。6歳と3歳のお孫さんを中心にしての一日が始まり、学校へ車での送迎、茶目気たっつぷりで遊び疲れていすで昼寝、皆でイビザ城、スポーツ道場での戯れ、豪快な夕食、兎に角目に入れても痛くないと言う

可愛いお孫さんを追った、愛情に溢れた微笑ましい作品でした。

6, 祇園華暦

高瀬辰雄 10分30秒

祇園の新年 沢山のカメラマンが待ち受ける中、始業式、新年の挨拶回りに華やかな雰囲気の花子さんが街を歩く。時期を追って八坂神社の舞の奉納・茶会、祇園祭りの花笠巡行お茶やさんえの挨拶回りと、あでやかな一団が慎ましく忙しく歩く姿をアップを交えてムード満点に描いておられます。撮影はなかなか大変だったと思いますが、行事の区切りにナレーションを入れて余裕を持たせればより良くなるのではとのご意見もありました。

7, 人生いろいろ20歳もいろいろ

柴辻英一 5分00秒

ある結婚式場の写真スタジオで成人式に臨むお嬢さん方が記念撮影をす前、大忙しの美容室でずらりと並んで、整髪が行なわれています。そして写真撮影、自分でお気に入りの選択、岸和田市の成人式会場前に集った娘さんたちの華やかな雰囲気は希望に満ちています。と、一転して真珠湾攻撃の場面、厳しい海上の戦い、そして終戦、ヤミ市・戦災の街、作者の出征用の日の丸国旗と若き日の写真 同じ20歳でも余りにもかけ離れ過ぎているたと言う作品で、同年の私も同感、多少は若さに対する羨望と、どんな時代でも強く生きて欲しいとの願いでしょう。

8, 星田のだんじりリハーサル

鉄具嘉夫 11分00秒

星田神社ではだんじり、そして星田妙見宮では七夕祭りが催されています。ご神体はなんと1200年前に北斗七星から降った隕石とか今年の七夕は1200年祭になるそうで、一基のだんじりが、星田神社から妙見までの道行をリハーサル、途中で張り巡らされた電線を旨くよけて通過出来るかが見物で、玄武の神輿と共にまずは無事に到着して一安心。今年の7月23日が楽しみのようにです。